

# おお大勝利

令和4年度 山東サッカー一部報第9号 (11月1日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 2か月間の活動報告

以前は「筆まめ」と評価を受けていた私ですが、この頃すっかり部報を書くモチベーション、または、心の余裕を失っておりました。リーグ戦最終節（延期分）を前に、書いておきます。

前号では地区新人を前にした報告でしたので、まずは地区新人から。

**9月3日（土）地区新人1回戦山形工業戦を4対0**で無難に勝ち切った山東は、**4日（日）日大山形**と対戦。コーナーキック、フリーキックのたびに「山東の選手は動かぬ人形か」とばかりに何の抵抗もなく、ドフリーの日大の選手に（主に頭で）決められていく。前半だけで**5**失点で勝負あり。後半は少し抵抗したんでしょうが、日々の練習でいかに競り合っているフリをしているか、いかに自分からボールに合わせに行っていないかを見じめなほど痛感させられる試合となる。当たり前のことが当たり前のようにできるところが、日大山形の **strong** ポイント。ことごとく山東の **weak** を突きつけられた。

県新人の切符をつかむには、残り**2**試合で**1**勝が必要。**12日（土）の相手は山形城北**。正直、スキルの差、プレースピードの差が大き過ぎて、耐えるだけで精一杯。スコアこそ**1対2**で多少相手に冷や汗をかかせたが、勝てる要素はかなり少なかった。**2年FWマサツナ<sup>1</sup>**の（ゴールを見ない⇒見る余裕がない）ノールックのシュートが決まり、盛り上がりは作った。さて、県新人に出るためには、もうここで勝つしかない。**13日（日）相手は榎山高校**。今年、山本学園から校名変更した。榎山はボランチに攻守にわたって効いている山東3年のグッチのような選手がいて、ボランチのところで差をつけられた。このポジションで大きな差があると、アウトサイドの攻防でこちらがよほど有利にならないと、全体としては厳しい。焦ってばかりいる山東と、試合を落ち着かせられる選手のいる相手との差が、少しずつピッチに表れて来て・・・結局どんな失点だったか忘れましたが、中央を破られたような気がする。失点して、さらに焦る山東。焦りが攻撃の精度をさらに失わせ・・・得点することができず、あえなくタイムアップ。**無念の地区敗北。シンプルに力不足を感じる地区新人でした。**

そして、すぐ翌週、Y3Aのリーグ戦。19日祭日月曜の鶴岡中央戦こそ相手の事情により延期となったものの、**17日（土）長井高校戦**は行われた。もちろん地区新人負けて意気消沈の山東でしたが、リーグ昇格に向けて大切な戦いが続くことは間違いない。**1年FWシヨゴ**はスピードで相手に脅威を与え、なぜそのコースに飛ばすかよく分からないニアへ

<sup>1</sup> その後、彼は選手権にて右SBに抜擢され、ユーティリティープレイヤーであることを示しました。来年はどここのポジションするのでしょうか。

のシュートがポストに跳ね返ったいわゆる「ごつつあんゴール」を **1年SB または SH のソノベ**が決めたシュートは憶えている。これが試合を決める追加点となった。長井からもかなりゴールに肉薄されたが、相手の問題で失点をまぬがれた。**結局 2 対 0 で山東の勝利**。新人チーム同士の対決を制して、**貴重な勝ち点 3**を得た。一人一人のスキルを合計すれば、長井に負けていたと思われる。もちろん、一人一人が成長することが根本的には大切だが、**こういう粘り勝ちも大切**。

そして、**23 日（金）は鶴岡工業とのリーグ戦**。これが最終節の予定だったが、山形中央 C 戦と鶴岡中央戦が流れているので、第 12 節といったところ。場所は米沢 SF、人工芝。試合は、運べない、パスが繋がらない山東の選手を小気味良いパスワークで鶴工が翻弄する。鶴工も 3 部で苦しんでいるが、それ以上に山東のスキルのなさが深刻に感じられた。**でも粘って！ 結局スコアレスのドローに持ち込む**。泥臭い勝ち点 1 ゲット。鶴工からすれば「やらかした試合」だったと思います。

**10 月 1 日（土）、2 日（日）**は、今年で 11 回目？12 回目？の伝統ある**進学校大会**が坊平で実施される。B 戦はちょっと下の猿倉にて実施。例年は、坊平のウディロッジに宿泊して実施している。コロナで最近泊まれていないが、来年は行けるでしょう。そうすると、二日目は 7:00 キックオフなどの試合が組まれることとなる。この二日間、山東は米沢興譲館以外のチームとは対戦し、選手権に向けた良いトレーニングとなった。最終戦は地元対決である山南戦。この試合は率直に力の差を感じたが、近年、山南との力の差を感じて選手権に入ることが、選手権の相手と自分たちとの差をはかるバロメーターとして機能している気がする。具体的には、**地区新人で山南をかなり苦しめた寒河江高校**と選手権 1 回戦を戦うに際して、「相手の方が力が上」というチャレンジャーの構図の試合であることを明確に意識することができた。

**10 月 8 日（土）は選手権 1 回戦寒河江戦**。多くの方が応援に駆けつけて下さった。もちろん**後藤報道局長**は取材にいらっしゃったが、**清野総監督（後援会名誉会長）**と同期の**工藤先輩**も。また、佐竹コーチの父親（2 年ヤマトの祖父）や会田 1 年保護者会長のご両親（ショーゴの祖父母）など、私も高校の時から知っている方々に見守られた試合となった。さて、自分たちの方が力で劣っていることを強調する効果として「しっかり守備から入ることができる」ことが挙げられるが、山東の選手、相手の要警戒の選手を自由にさせない厳しい守備を見せている。時折、クラブチーム出身の判断の良い相手選手に厳しい所にボールを運ばれるも、全体としてはよく守った。**新人チームとなって最も良い試合だった**。また、前半のうちに、この試合から **FW に「復帰」した 1 年ソータ**が落ち着いて先制点を決めるなど、翌日に向けて好材料があった<sup>2</sup>。あと、最後にまたやりおった！ 終盤に投入された **2 年「持っている男」カルロスことトシキ**が、よく分からないゴチャゴチャからゴールにねじ込み、4 点目を決める。この得点は、公式記録上、オウンゴールとなった模様だが、山東としてはカルロスの得点。そうそう、この試合から、GK のサブとして **3 年 GK ジャッカルことソーゴ**が来てくれた（練習は一切していないが）。そんで、**2 年 GK**

<sup>2</sup> ただし、厳密に言うと、右からのパスを左または真ん中にトラップした上で右に持ち替えてシュートを打ったが、DF が当たり前の対応をしていれば、右に持ち替えた段階で引っかかっている（少なくとも、自由に打たせてくれない）。そこにソータが気づいていれば、彼は成長していけるが、ハーフタイムだったか試合後だったかに、「あのシュート、よく冷静に決めたと思いませんか」などと誇っているシーンに接すると、不安になります。

コースケがケガしないので「せっかく来てもらったんだから」とジャッカルには FP で出場してもらった（具体的にはボランチにて）。

**翌9日(日)は県総体でも負けた因縁の相手、米沢中央。**3年生もいれば「さあ雪辱だ！」と意気上がるものの、別チームとなった山東にとっては選手権という大事な大会で当たった格上チームというだけ。でも、簡単には引き下がらず、これを3年生最後の試合にしている相手に対して、失うものは何もない山東新人チームが「嫌がらせしよう」と心をついにしていた。**岸後援会長(山形県サッカー協会副会長)**が会場を訪れる<sup>3</sup>。試合が始まると、相手の怒涛の攻撃を受けるも、何とか凌ぐ（というか、相手のシュートが枠を外す）。そうこうしていた前半中盤に事件が起きた！ 相手 CB 裏に放り込まれた何でもないボールに対して、相手の GK と CB がお見合い。それをファーサイドの死角から走り込んだ**1年「高速の貴公子」FW ショーゴ**がかっさらって、GK も抜いて、無人のゴールに流し込み、山東まさかの先制。大方の予想に反した山東の先制に会場が沸く。さあ、面白くなってきた、と思ったのもつかの間、左利きのスキルフルな選手に対して左足を消す守り（左側を抑える守り）ができず、左足で同点弾を浴びる。まあ、そんなもんでしょう。1対1で前半を折り返すのは山東としては望外の展開。後半も攻め込まれるのは同じ。山東はアバウトな攻撃を何とか気合でつなげるしかない。しかし、PK を献上してしまい、県総体に続けて2失点目を PK で失うこととなった。ジャッカルを再び投入し、さっそくジャッカルへのヘディングのうまさがる展開となり、相手ゴールに気合で迫るも、一歩及ばず、そのまま**1対2で敗戦**となる。県総体が0対2ですから、新人チーム、よくやったことは間違いない。ただ、事故としての勝ちはあり得ても、やはり勝ちはずだった。チームとしての成熟の前に、**来春までに個々人のサッカースキル・判断力を上げて行かなければならない**ことを痛感させられた試合となった。

15日(土)選手権3回戦は山東は運営に回り、**22日(土)は翌日に選手権準決勝を控えた山形中央のCチームと県リーグ13節**。当初7月末にやるはずが、流れに流れて、このタイミングとなった。山形中央さんもBチームであれば選手権準決勝前にやりたくないのかもしれませんが、Cのメンバーは選手権メンバーと重複もなくやれるということでしょう。さすがの余裕です。この試合、前半、中盤で奪えるボールを複数人が逃し、サイドを突破され、センター（ゴール前）でも競り合えず、ドフリーのヘディングであっさり先制を許す。コーチ陣とは、「この試合で勝ち点を取ると、次の最終節で（昇格に際して）自力になるが、厳しいだろうね」と言い合っていたが、やはりと思わされる展開。しかし、その後、山中Cのシュートが決まらない。**2年 GK コースケ**も、シュートストップの安定感は今年最も成長した部分で、よく守った。そんな感じで、1点差の展開があると何があるかわからない。試合終了のアディショナルタイムに入ってから、**ショーゴがPKを獲得し、それを自ら決めて、最終盤で同点とする**。この時点で、アディショナルタイムも残り1分。「1分あるぞ、（まずは守備を）集中しろ」という監督の声もむなしく、すぐさまサイドを突破され、「終わった」と誰もが観念したところをコースケがストップ。「助かった」と思ったら、今度は山東の逆襲、**1年ボランチのケンヤ**がドリブルで運んだ後、ショーゴに正確なパスを供給。ボランチとしてまだまだ足りないことが多い彼だが、キックの正確性ではチーム1。

<sup>3</sup> このときは、これから始まる残酷な失点ショーを岸後援会長にお見せすることになるのか〜とちょっと不安になりましたが、選手の頑張りに逆にお褒めをいただく試合となりました。

そのパスを受けて、相手を縦に抜いて（というかトラップで相手の前に出て）そのまま左足でシュート！ と思いきや、右に持ち替えて引っかける、という「さもありなん」という展開で試合終了。最後の 2 分間に、3 点分見た思いでした。ということで、指導陣の予想に反する勝ち点 1 をゲット。

これにより、**次節の最終節、鶴岡中央戦に勝てば、リーグ 2 位以上が確定し昇格が決定**する。来年を 3 部リーグで迎えるのと 2 部リーグで迎えるのとの差が出ることでしょう。新入部員のモチベーションの差にもなると思われる。まず何とか、次の試合に勝って、深く考えずに昇格を手にした<sup>4</sup>。

**23 日（日）は選手権準決勝の運営後、保護者会主催のリーグ戦激励会を開いて下さいました。**残念ながら出席できない部員や保護者がおりましたが、難しいタイミングにも負けず開催を決めて下さった保護者会の皆様に感謝申し上げます。憶えている限りでは、すべての保護者の方とお話をさせていただきました。

さあ、あとは、今季最終戦を残すのみです<sup>5</sup>。応援よろしくをお願いします。

**11 月 6 日（日）Y3A 第 14 節 鶴岡中央戦 15:00～ @山形明正 G**

---

<sup>4</sup> 実は、いろいろな他力で、勝てなくても昇格の可能性はあるにはあります。

<sup>5</sup> ただし、**11 月 26 日（土）に一年生大会がございます。山東は山形中央との初戦となります（@山形明正、11:00～）。**